

平成25年度
養成訓練事業(専門課程・短期研修)
フォローアップ調査報告書

国立保健医療科学院

平成25年度 国立保健医療科学院専門課程・短期研修
フォローアップ調査報告書 総括

1. 本調査の目的

国立保健医療科学院(以下、科学院)は、現在、研究課程、専門課程Ⅰ～Ⅲ、短期研修46コース(平成25年度)の教育研修を実施しており、年間2400名近くの修了生を出している。継続的に教育研修の質の向上を図ることは、科学院での養成訓練事業を発展させる上で極めて重要であると考えられる。今回、研修の有用性の検証と研修に関するニーズ把握を目的として、平成24年度の派遣元及び修了生を対象にフォローアップ調査を実施したので、その結果の概要を報告する。

2. 対象と方法

調査の対象は、専門課程については現行のⅠ、Ⅱのうち4分野(保健福祉行政管理分野、地域保健福祉分野、生物統計分野、健康危機管理分野)、Ⅲの3分野(地域保健福祉専攻科、地域保健臨床研修専攻科、健康危機管理専攻科)の派遣元及び修了生とした。ただし、明確な派遣元がない分野もあるので、その場合は修了生のみを対象とした。

短期研修については、平成24年度に実施した研修のうち4研修を対象とした。具体的には、たばこ対策の施策推進における企画・調整のための研修、児童相談所中堅児童福祉司・児童心理司合同研修、薬事衛生管理研修、地域保健支援のための保健情報処理技術研修の派遣元及び修了生を対象とした。

調査の方法は、自記式質問票を派遣元及び修了生に郵送し、FAXにて回収した。

派遣元の郵送先は、専門課程については衛生主管部局宛とし、短期研修については応募書類を参考に派遣部局を特定した。

質問事項は、共通質問と分野・研修別の個別質問からなっており、前者は、「役に立っているか(派遣元・修了生)」、「今後も職員を派遣するか(派遣元)」、「他の人に勧めたいか(修了生)」、「今後も実施すべきか(派遣元・修了生)」、「受講申込方法をインターネットで行うに当たってのパソコンの環境等(派遣元)」、「インターネットによる遠隔授業の導入に伴う変化(修了生)」、「タブレット端末を利用した講義に対する考え(修了生)」を尋ね、後者は、各分野・研修に特化した質問項目を数問から数十問尋ねた。

3. 結果の要約

回収率は、専門課程全体で派遣元62%(回収数/送付数=28/45)、修了生55%(回収数/送付数=26/47)で、短期研修全体では、派遣元85%(回収数/送付数=86/101)、修了生81%(回収数/送付数=103/127)であった。

専門課程の結果

「(たいへん)役に立っている」との回答は、派遣元 100%、修了生 92%、「(ぜひ)派遣したい(派遣元)」は 78%、「(強く)勧めたい(修了生)」も 93%と、全体としては、派遣元・修了生ともに肯定的な意見が多数であった。

その他、修了生から「系統的に勉強できたので、何かわからないことがあったら、何を調べたらよいかわかるようになった(保健福祉行政管理分野)」、「研修期間中は、関わりがない分野の研修は難しいと感じたが、後になって“こういうことだったのか”と思いあたることも多い(保健福祉行政管理分野)」、「地域ケアシステムの構築や健康な地域づくりをめざすための考え方・手法を体系的に学ぶことができた(地域保健福祉専攻科)」、「研修の中で考えた地域ケアシステム(人材育成)を職場に戻ってから実際に実践させてもらったので、資料を見直し参考にすることが多かった(地域保健福祉専攻科)」、「より広い視点で医療をとらえられるようになった(地域保健臨床研修専攻科)」などの意見が寄せられた。また派遣元からも、研修の重要性に関する意見が寄せられた。

短期研修の結果

「(たいへん)役に立っている」との回答は派遣元 99%、修了生 85%となっており、この差は研修生が異動等により研修で学んだことが活用できないことによるものと思われる。また、「(ぜひ)派遣したい(派遣元)」は 87%、「(強く)勧めたい(修了生)」も 91%と、全体としては、派遣元・修了生ともに肯定的な意見が大多数であった。

インターネットによる受講申込について

科学院では、将来的に受講申込方法を紙媒体での申し込みからホームページで行う予定である。具体的な実施方法の参考とするため、今回派遣元にパソコンの環境等を尋ねた。その中で、科学院の遠隔研修サイトの URL 閲覧については専門課程、短期研修とも「可能」が 8 割を超えており、今後に向けてとても参考になった。

インターネットによる遠隔授業について

科学院での集合研修の前後に、インターネットによる遠隔授業を取り入れて集合研修期間の短縮化を図ると、どのような変化が予想されるか修了生に尋ねた。専門課程では、「今より研修に参加しやすくなる」が 3 割を超えている一方で、「変わらない」が 1 割、「どちらとも言えない(判断できない)」が 5 割あり、回答が分かれた。短期研修では、「今より研修に参加しやすくなる」が 2 割、「変わらない」が 1 割あり、「どちらとも言えない(判断できない)」が 6 割を超えた。その理由を見ると、勤務時間内に遠隔授業時間を設定してもらえるのか、集中できるのかなど、受講環境に左右されることがあるため、現時点では、判断できないとのことであった。研修別に見ると、「今より研修に参加しやすくなる」が 5 割を超える研修もあった。

講義資料のタブレット端末利用について

科学院では、将来的に紙媒体の講義資料からタブレット端末を利用した講義を予定している。これに関連して、派遣元には研修終了後に講義資料を科学院のホームページに掲載した場合のダウンロードの可否について尋ねた。その結果、専門課程では「可能」が 9 割を超え、短期研修でも「可能」が 9 割近くあり、講義資料のホームページへの掲載については、ほぼ問題ないことが確認できた。

また修了生に、タブレット端末を利用した講義に対する考えを尋ねたところ、専門課程では「タブレット端末のみの講義で問題ない」が1割、「講義資料をダウンロードできれば問題ない」が7割を超えている一方、「紙媒体での講義資料を廃止した場合、何か問題がある」が4割と回答が分かれた。短期研修でも同様の傾向が見られ、「タブレット端末のみの講義で問題ない」が1割未満、「講義資料をダウンロードできれば問題ない」が7割を超えており、「紙媒体での講義資料を廃止した場合、何か問題がある」が2割と、回答が分かれた。

4. 調査を踏まえた提案

今回のフォローアップ調査に寄せられた意見を各分野・研修ごとに検討し、さらにそれらをまとめたところ、専門課程、短期研修について、それぞれ以下のように集約されたので、対応策とともに述べる。

専門課程への提案

専門課程Ⅰ

①臨床医から公衆衛生医師への転向についての支援

保健福祉行政管理分野の場合、研修生の多くが臨床医からの転向であり、公衆衛生医師としての活動に戸惑いを感じる人が多い。また行政の枠組みのなかでどのように日常業務を行って良いか不安を感じている者も多い。科学院では、既に「組織経営・管理」を科目として開設し、組織マネジメント能力の醸成を図っているところであるが、修了生からの意見にあるように、現場に出た場合の行政の中での身のこなし方や、現場の労使関係の現状を勘案した上での管理やリーダーシップのあり方などがわかるような、地方自治体公務員としての基礎的事項を学ぶ機会を提供することは、臨床医から公衆衛生医師として活動を始める上での最初のバリアを低減する可能性がある。正規の授業枠として開設は難しいかとは思いますが、自主研修の枠組み等のなかで、今後のキャリアをスタートさせるきっかけ作りの機会を提供することは、社会に貢献する地域保健専門職を育成する上での一助となる可能性がある。

②修了生への継続的なサポート

保健所が関与する業務は多岐にわたり、かつ昨今の健康関連施策の動向を鑑みると、保健所長就任後にこそ、定期的なフォローアップが必要となってくる。特に、公衆衛生行政経験が比較的浅い場合は、保健所長になった後、地域保健の現場での課題に直面して対応策に悩むことも多い。今回の調査においても、修了生から終了後のフォローアップ研修を望む声が出ている。修了生への継続的サポートについては、人的・財的資源の制約からすぐには実現できない可能性は高いが、今後に向けて検討を始める必要がある。

専門課程Ⅱ地域保健福祉分野及び専門課程Ⅲ地域保健福祉専攻科

リーダーシップ論や地域ケアシステムの講義が、現場のニーズにとっても合っているという肯定的な意見が聞かれている。一方で、費用対効果が見えにくいことが指摘された。これは、当該分野においては、受講後すぐに着く部署が、全体を管理する立場ではなく、個別の業務を担当する立場であるため、系統的な学びや考え方の比重が大きいプログラムの効果が短期的に見えにくい事に関係しているものと思われる。これは、研修効果にとって研修生への意識付けが重要であるとか、経験年数によっては求められる役割や伝達の仕方が分からないといった感想が聞かれている事とも関連している。

カリキュラム構成に関し、「頭に入りやすい順番に講義を並べてほしい」「実地見学の移動時間がもったいない」などの要望については、すでに対応が行われつつある。

24年度の研修生は専門課程Ⅱが2人、Ⅲが11人と比較的多くの研修生が受講していたため、他の研修生との交流が刺激になったと記載されている。今後は短期の研修

の受講を意図的に組み、意見交換がはかれるような工夫が必要であり、既に計画している。

また、事前に研修の内容を教えてほしいと言う要望があり、シラバスの事前提示や事前学習（特別研究に関連する資料収集）などが必要である。

いずれの分野も総合しての課題として、専門課程Ⅰの②にも記載したように、フォローアップサポート研修のような取り組みを行うことも、一つの提案となる。修了後短期のみならず中長期的に経過している修了生も含め、自由参加で修了年次横断的に修了生がざっくばらんに集合し、長い経験を経て、やはり科学院の研修が役に立っているという点、このような内容をもりこんだら良いと言ったような内容を、経験を積んだ視点でフィードバックしてもらおう。また、科学院でサポートできる点については、これを積極的に行う。これによって、行政者としてのセンスを育成してほしい、と言った種の要望にも、答えやすくなるものと考えられる。

短期研修への提案

① インターネットによる受講申込について

科学院の遠隔研修サイトの URL 閲覧については「可能」が 8 割を超えており、特に問題はないと考えられるが、個人情報保護の観点から、管理の徹底をしてほしいとの意見があった。

② インターネットによる遠隔授業について

「今より研修に参加しやすくなる」2 割、「変わらない」1 割であり、「どちらとも言えない(判断できない)」が 6 割を超えた。その理由を見ると、勤務時間内に遠隔授業時間を設定してもらえるのか、集中できるのかなど、受講環境に左右されることがあるため、現時点では、判断できないとのことであった。インターネットによる遠隔授業の推進に当たっては、受講生が勤務時間内にも遠隔授業に時間を割くことができるような何らかの仕組みを作る必要があると考えられた。

③ 講義資料のタブレット端末利用について

講義資料のタブレット端末利用については、「タブレット端末のみの講義で問題ない」が 1 割未満であり、条件付きで「可能」としている。講義資料のタブレット端末利用については、操作に慣れていない、メモをとるのが困難などの意見が多く、さらに検証が必要であると考えられた。

補足

本調査は平成 25 年 12 月に実施したもので、要望として挙げられたものについては概ね平成 26 年度の研修に反映しており、派遣元や修了生からいただいた貴重なご意見を活かすことができた。

5. 今後のフォローアップ調査について

今回（第 5 回目）の調査では、アンケートの回収率は専門課程全体では派遣元 62%、修了生 55%、短期研修全体では派遣元 85%、修了生 81%と良好であった。

専門課程の評価は、「(たいへん)役に立っている」は派遣元 100%、修了生 92%、「(ぜひ)派遣したい(派遣元)」は 78%、「(強く)勧めたい(修了生)」は 93%であった。短期研修の評価は「(たいへん)役に立っている」は派遣元 99%、修了生 85%、「(ぜひ)派遣したい(派遣元)」は 87%、「(強く)勧めたい(修了生)」は 91%であった。専門課程・短期研修においては概ね高い評価を得ており、コメントも派遣元・修了生ともに肯定的な意見が大多数であった。

これらの調査結果を踏まえて、専門課程に対しては、①臨床医から公衆衛生医師への転向についての支援、②行政と現場を結びつけるマネジメント研修、③フォローアップ研修などによる修了生への継続的なサポートの提案があった。短期研修に対して

は、①インターネットによる受講申込、②インターネットによる遠隔授業、③講義資料のタブレット端末の活用についての提案があった。これらの提案は研修方法の改善および研修の質の向上に直接結びつくものである。翌年度以降においても、養成訓練事業（専門課程・短期研修）のフォローアップ調査を継続することが必要である。

6. おわりに

専門課程および短期研修において、概ね高い評価をいただき、職員一同、たいへん勇気づけられている。また、個々の研修のみならず科学院の研修全般についても、たいへん多くの建設的なご意見をいただくことができた。

全国の地方自治体とそこから派遣される研修生により、国立保健医療科学院が支えられていることを常に心に留めて、今後も現場のニーズに即したよりよい研修の実現のために最善の努力を続けていきたい。

最後に、今回の調査に当たり、御協力いただいた関係者の皆様に、心より感謝する次第である。

アンケート調査集計表(全体版)

< 専門課程 >

回答等	研修名	専門課程 I		専門課程 II		専門課程 III		合計	
		派遣元	修了生	派遣元	修了生	派遣元	修了生	派遣元	修了生
発送数		19	19	5	7	21	21	45	47
回収数		13	12	4	4	11	10	28	26
回収率		68%	63%	80%	57%	52%	48%	62%	55%
(派遣元) 本研修は役に立っていますか	たいへん役に立っている	11	5	3	2	6	4	71%	42%
	役に立っている	2	7	1	2	5	4	29%	50%
	どちらとも言えない						2	0%	8%
(修了生) あなたの現在の職務遂行にとって、本 研修は役に立っていますか	役に立っていない							0%	0%
	全く役に立っていない							0%	0%
(派遣元) 今後とも本研修に職員を派遣します か	ぜひ派遣したい 強く勧めたい	8	4	1	0	4	5	46%	34%
	派遣したい 勧めたい	2	7	3	4	4	4	33%	58%
	どちらとも言えない	3	1			3	1	21%	8%
(修了生) 本研修を他の人に勧めたいと思いま すか	派遣したくない 勧めたくない							0%	0%
	絶対派遣したくない 絶対勧めたくない							0%	0%
(派遣元・修了生) 本研修は、今後も実施すべきであると 思いますか	是非とも実施すべきである	10	5	2	1	4	5	57%	42%
	実施すべきである	2	6	2	3	6	4	36%	50%
	どちらとも言えない	1	1			1		7%	4%
	実施する必要はない							0%	0%
	実施する必要は全くない							0%	0%
	無回答						1	0%	4%

回答等	研修名	専門課程 I		専門課程 II		専門課程 III		合計	
		派遣元	修了生	派遣元	修了生	派遣元	修了生	派遣元	修了生
(修了生) 科学院での集合研修の前後にインターネットによる遠隔授業を取り入れて集合研修期間の短縮化を図ると、どのような変化が予想されますか	今より研修に参加しやすくなる		4				5	0%	35%
	変わらない		1				2	0%	12%
	どちらとも言えない (判断できない)		6		4		3	0%	50%
	その他		1					0%	4%
(派遣元) 科学院では、将来的に紙媒体の講義資料をiPadなどのタブレット端末を利用した講義を予定しています。その場合、研修終了後に講義資料(電子媒体)を科学院のホームページ上に掲載する予定です。									
	可能	12		4		11		96%	0%
(修了生) 科学院では、将来的に紙媒体の講義資料を廃止し、iPadなどのタブレット端末を利用した講義を考えております。タブレット端末を使用した講義に対してどのような考えですか	不可能	1						4%	0%
	タブレット端末のみの講義で問題ない		2				1	0%	12%
(修了生) 科学院では、将来的に紙媒体の講義資料を廃止し、iPadなどのタブレット端末を利用した講義を考えております。タブレット端末を使用した講義に対してどのような考えですか	講義資料をダウンロードできれば問題ない		9		3		7	0%	73%
	紙媒体での講義資料を廃止した場合、何か問題がある		6		3		2	0%	42%
	無回答						2	0%	8%

＜短期研修＞

回答等	研修名	たばこ対策の施策推進における企画・調整のための研修		児童相談所中堅児童福祉司・児童心理司合同研修		薬事衛生管理研修		地域保健支援のための保健情報処理技術研修		合計		
		派遣元	修了生	派遣元	修了生	派遣元	修了生	派遣元	修了生	派遣元	修了生	
発送数		14	14	35	59	35	36	17	18	101	127	
回収数		11	13	29	48	35	31	11	11	86	103	
回収率		78.6%	92.9%	82.9%	81.4%	100.0%	86.1%	64.7%	61.1%	85%	81%	
(派遣元) 本研修は役に立っていますか	たいへん役に立っている	3	6	7	3	26	20	4	5	47%	33%	
	役に立っている	8	7	21	34	9	8	7	5	52%	52%	
	どちらとも言えない				9		2		1	0%	12%	
	役に立っていない						1			0%	1%	
	全く役に立っていない									0%	0%	
	無回答			1	2					1%	2%	
	(修了生) あなたの現在の職務遂行にとって、 本研修は役に立っていますか	ぜひ派遣したい 強く勧めたい	2	1	11	5	29	23	4	4	53%	32%
		派遣したい 勧めたい	7	12	11	34	6	8	5	7	34%	59%
		どちらとも言えない	2		5	7			2		10%	7%
		派遣したくない 勧めたくない									0%	0%
絶対派遣したくない 絶対勧めたくない										0%	0%	
無回答				2	2					2%	2%	
(派遣元・修了生) 本研修は、今後も実施すべきである か		是非とも実施すべきである	2	5	8	7	31	28	4	4	52%	43%
		実施すべきである	9	8	20	37	4	3	3	7	42%	53%
		どちらとも言えない				2			3		3%	2%
		実施する必要はない									0%	0%
	実施する必要は全くない									0%	0%	
	無回答			1	2					1%	2%	

回答等	研修名	たばこ対策の施策推進における企画・調整のための研修		児童相談所中堅児童福祉司・児童心理司合同研修		薬事衛生管理研修		地域保健支援のための保健情報処理技術研修		合計	
		派遣元	修了生	派遣元	修了生	派遣元	修了生	派遣元	修了生	派遣元	修了生
(修了生) 科学院での集合研修の前後にインターネットによる遠隔授業を取り入れて集合研修期間の短縮化を図ると、どのような変化が予想されますか	今より研修に参加しやすくなる 変わらない どちらとも言えない (判断できない) 無回答		2		8		8		6		23%
					7		1				8%
			11		31		21		5		66%
(派遣元) 科学院では、将来的に紙媒体の講義資料をiPadなどのタブレット端末を利用した講義を予定しています。その場合、研修終了後に講義資料(電子媒体)を科学院のホームページ上に掲載する予定です。 講義資料(電子媒体)を科学院のホームページ上に掲載した場合、貴自治体のセキュリティに関するルールでは、ダウンロードは可能ですか	可能 不可能 どちらでもない 無回答										
			9		23		33		11		88%
			1		2		1				5%
(修了生) 科学院では、将来的に紙媒体の講義資料を廃止し、iPadなどのタブレット端末を利用した講義を考えています。タブレット端末を使用した講義に対してどのような考えですか	タブレット端末のみの講義で問題ない 講義資料をダウンロードできれば問題ない 紙媒体での講義資料を廃止した場合、何か問題がある 無回答										
			1		2		3		1		7%
			9		39		21		8		75%
		5		6		3		3		17%	
				4		4		4		0%	8%